

情報公開文書

Ver1.0 2021年11月8日

2005年1月1日から2021年10月31日までに京都大学医学部附属病院消化管外科で胃癌に対して外科治療を受けられた患者さんへ

1 研究の名称

機械学習を用いた胃癌術後腹腔内感染性合併症発生予測モデルの作成

2 倫理的配慮

この研究は、京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けて実施しています。

3 研究組織

3.1 研究責任者

京都大学 消化管外科 教授
小濱和貴

3.2 分担研究者

京都大学 消化管外科
講師 角田茂
助教 岡村亮輔
大学院生 青山龍平

4 研究の目的・意義

4.1 目的

胃癌術後の腹腔内感染性合併症の発生を早期に予測するためのリスクモデルを作成します。

4.2 意義

腹腔内感染性合併症である膣液瘻と腹腔内膿瘍の発生を早期に予測することで、術後に慎重な経過フォローを必要とする集団を抽出し、早期診断から早期治療介入につなげることで重症化を防ぐことが可能になると考えています。

5 研究実施期間

研究実施機関の長の許可日より2年間

6 対象となる試料・情報の取得期間

2005年1月1日から2021年10月31日までに京都大学医学部附属病院消化管外科において、胃癌に対して外科切除術を受けられた患者さん。

7 試料・情報の利用目的・利用方法

匿名化した状態で以下のデータを収集します。

8 利用または提供する試料・情報の項目

患者背景:年齢、性別、身長、体重、ASA-PS 分類、喫煙歴、併存症、栄養状態など

疾患詳細:腫瘍存在部位、cT、cN など

手術内容:アプローチ、術式、手術時間、出血量、合併切除臓器など

術後経過:血液検査所見、ドレーンアミラーゼ、ドレーン留置日数、術後合併症など

9 試料・情報の管理について責任を有する者

小瀨和貴

京都大学 消化管外科 教授

10 研究参加を希望されない場合

研究対象者またはその代理人が求めた場合には、研究対象者が識別される試料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止します。

11 情報公開について

他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究計画書および研究の方法に関する資料の入手閲覧は可能です。京都大学消化管外科医局の下記問い合わせ先までご相談ください。

12 研究資金・利益相反

研究は運営費を資金源とし、利益相反については「京都大学利益相反ポリシー」「京都大学利益相反マネジメント」に従い「京都大学臨床研究利益相反審査委員会」において適切に審査されています。

13 問い合わせ先

京都大学消化管外科医局:075-751-3111(代)、研究担当:角田、岡村、青山

京都大学医学部附属病院 臨床研究相談窓口:

075-751-4748、ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp